

はじめに

血栓止血検査は、ある程度の医療機関であれば日中・夜間を問わず 24 時間 365 日検査が実施されているのではないのでしょうか。ただ、自分も含め血栓止血学を得意とする医療従事者が少ないように思います。血液検査というと主に血球計算や血液像をはじめとした形態学の書籍を多く目にしますが、血栓止血検査となると血液学の本の一部に掲載されていることが多く、これまで血栓止血検査に特化した書籍をあまり見かけることはありませんでした。そこで「なければ作ってしまおう」と思い、この企画に至りました。

今回は「匠から学ぶ血栓止血検査ガイド」と題し、血液検査の中でも血栓止血検査にだけ焦点をあてて増大号としました。各項目についてご執筆いただいている先生方は、その分野で御高名な方々ばかりです。血栓止血検査において“一流になる”ためにはやはり、“一流から学ぶ”ことが一番の近道だと考えております。

5 章立てで構成された本誌では概論に始まり、検査前プロセス、検査プロセス、検査後プロセス、関連疾患のまとめ、に分かれています。検査前プロセスでは、血栓止血検査に必要な前処理に対する基本的な考え方、不適切な処理があった場合には検査結果にどのような影響があるかなどが記載されています。検査プロセスにおいては各検査項目の基本事項をはじめ、異常値から推測される病態や異常値が出るメカニズムが説明されています。また、検査後プロセスとして、血栓止血検査が各種薬剤のモニタリングに使用されている役割とその重要性についてや、症例提示形式で異常値から診断に至る過程についてもご解説いただいているため、日常業務において結果の解釈に迷った際に参考になると思います。疾患のまとめでは血栓止血に関連した各疾患の疾患概念、疫学、発生機序と病態、診断に至るまでを網羅した内容となっております。

これまで血栓止血検査の理解が難しく苦手意識をもっている方も多いかと思いますが、普段は血液凝固検査に携わっておらず、日直業務や夜勤業務の時にしか従事しない方もいらっしゃると思います。また、血液検査を担当されている方で、各種資格試験のために日々勉強されていらっしゃる方もいると思います。どなたでも気軽に手に取っていただき、皆様の日常業務や血栓止血検査のさらなる理解の一助になれば幸いです。

日本赤十字社医療センター検査部

平石 直己